

江戸以来の歴史と伝統をひもとく

近江商人 解体新書

近江八幡・東近江(五個荘)・日野

本店は近江(現・滋賀県)に置き、全国を飛び回り商いを行った近江商人。その主要な出身地が近江八幡、東近江(五個荘)、日野だ。偉人や名言、お宝や名建築をヒントに、風情ある町並み散歩に出かけてみよう。

キーワードで知る「近江スタイル」 近江商人が残した金言集

ひとくちに「商人」といっても、そのスタイルは地域によって千差万別。時代を越えて受け継がれてきた数々の名言に、全国を股にかけた商売を成功させるための秘訣が表れている。

SUGOI ① SDGsを先どり!? 「三方よし」で 万事快調

「売り手よし、買い手よし、世間よし」を表す、近江商人の商売に対する考え方を象徴する言葉。売り手が自身の利益だけに固執せず、購入者の満足も考えて、ひいては社会貢献になるように商売をすること。

世界各地で2010年代後半から盛んに叫ばれるようになった「SDGs」を、数百年前から実践してきた証拠ともいえる。



「金は天下の回りもの」じゃな

SUGOI ② 現在でいう公共事業 苦しい時こそ 「お助け普請」

近江商人が他所でも滞りなく商売できていたのは、地元が活性化していたからこそ。そのために「お互い様」という考え方が常にあった。凶作や不況など苦しい時ほど、地元の中小企業が元気になって地域が活性化されるように、自宅や神社仏閣の改修など、公共事業的な仕事を彼らに発注していた。



これも「三方よし」だね

SUGOI ③ 「しまつしてきばる」がお金持ちへの近道

「しまつ」は節約、「きばる」は働くの意。つまり「節約して働く」ということだが、単に「ケチケチして儲けよ」という意味ではない。お金は、社会のために

使う時は使い、飲んだり遊んだりする時は節度を持ってということ。日野商人の中井源左衛門は「金持ちになるのは決して運ではない」と記している。

SUGOI ④ 「のこぎり商い」で 利益も行ったり来たり

近江の特産品を全国各地へ売りに行き、その売上で現地で仕入れた商品を、また別の土地で売る。商品をのこぎりで木を切る時のように往復させながら商売していることから、この言葉が生まれた。国内でも別の土地へ行くのが、現代にたとえるなら外国へ行くほどハードルが高かった時代。各国の名産品を扱えるメリットは大きかった。



SUGOI ⑤ 商売には厳しさも必要 不適格な主人は「押込隠居」に

江戸時代、近江商人の家では親族や後見人たちが集まって取締役会のようなものを開いたうえで、主人として不適格な人物は隠居させていた。そのこと自体、あるいは隠居させられた人を「押込隠居」と呼ぶ。裏には、商売の繁栄は一代で築かれるものではなく、先祖の苦勞の賜物によって続いてきた家業を主人が守って次の代へつなぐように努めるべき、という考え方がある。

SUGOI ⑥ 人知れず人のために 「陰徳善事」が重要

売名行為ではなく、かつ、人知れず人の為になるような行いをするのが近江商人らしさ。具体的には、神社仏閣への寄進、橋の架け替え工事、学校建築への寄付などがある。大規模な植林工事をした五個荘商人の塚本定次・正之兄弟は「治水・治山の父」と呼ばれ、商人としても成功をおさめた。



番頭さんと丁稚くん 日本初のボーナス



1789年、「寝具の西川」として知られる西川家の七代目利助が「三割銀制度」という名で日本初のボーナスを制定した。今では当たり前の制度だが、店の売上は主人の私有財産ではないと考える、近江商人ならではの発想だ。

各時代のキラ星のごときスターたち

近江商人ベストイレブン

海の向こうで一旗揚げた冒険精神あふれる男たちもいれば、夫の再起を支えた精練(そうこう)の妻、老いてから教育に貢献した女性校長もいた。時代も地域も超え、エピソードに事欠かぬ傑物たちがここに集結。

450年以上続く老舗の祖を築く

① 西川仁右衛門

[1549-1644] (近江八幡)

「寝具の西川」で知られる山形屋西川家の初代。彼が18歳で行商を始めたのが、450年以上の歴史を持つ西川の原点。

西川といえば江戸時代、萌黄色(もえぎいろ)の蚊帳を発明して一世を風靡したことで有名だが、初代は元々、豊臣秀次による城と城下町の建設に際し、工務監督として近江八幡へやって来た。本店を構え、本格的に蚊帳と畳を売り始めた後、江戸に進出。当時はまだ開発途上だった日本橋にも店を構えた、先を見通す力を持った人物だった。

日野売薬の先駆け的存在

③ 正野玄三 [1659-1733] (日野)

18歳で行商を始め、当初は京都、大坂で仕入れた木綿や古着、中古の装飾品などを信州・越後で売り、現地では煙草などを仕入れて他の土地で売るなど、「のこぎり商い」を行っていた。

30代より医療製薬の技術を学ぶようになり、40代で売薬業を開始。「神農感應丸」は万病に利くとして瞬く間に普及。以後、漆器に加えて薬が日野商人の主力商品となった。現在も「正野萬病感應丸」として販売されている。

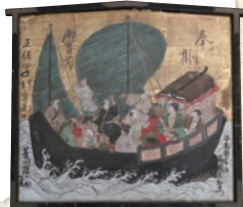


若干ハタチで海を渡った漢、

② 西村太郎右衛門

[1603-1651] (近江八幡)

商家の次男坊として誕生し、20歳で藤朱印船に乗って長崎から安南(現・ベトナム)へと旅立った。異国で25年間を過ごした後、日本へ帰って来たところ、鎖国で入れず。そのまま安南で生涯を終えることとなった。長崎の港で、絵師に故郷への想いを託して描かせた巨大な絵馬「安南渡海船額」を日牟禮八幡宮へ奉納(現存)。

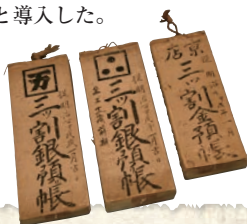


中興の祖にして革命児

④ 西川利助

[1746-1825] (近江八幡)

山形屋西川家の七代。火事により度々被災したことから、現在の積立金にあたる「除銀(よけぎん)」や、純益の一部を奉公人にも分配する「三ツ割銀」など、革新的な制度を次々と導入した。



「たるまさん精神」で成功を掴む

⑤ 山中正吉

[1809-1896] (日野)

駿河(現・静岡県東部)の富士宮で酒造業を営み、一度は失敗するも再起し、商いを繁盛させることに成功した人物。本宅の旧山中正吉邸(近江日野商人ふるさと館)は、日野町の西大路に今も残る。四代目妻・園は、邸宅内にだるま部屋を設け、1000点ものだるまを飾っていた。「こころをたるまさんように」の意が込められていたとか。

これこそ「七転び八起き」じゃな



晩年を女子教育に捧げた

⑥ 塚本さと [1843-1928] (五個荘)

木造の旧校舎が今もあるよ



「紅屋」の屋号をもつ初代・塚本定右衛門の五女として生まれ、21歳の時に店の奉公人であった源三を婿に迎えて、近江商人の妻となった。寺子屋での勉強のほかに、家庭で「裁縫、生け花、茶道」を女子の嗜みとして学んだが、明治に

入って新しい世の中を迎える中で女子教育の大切さを痛感。夫と死別後、1919(大正8)年、77歳で私費を投じ淡海女子実務学校を創立し校長に就任。「時代に適した商家の女子を養成する」ことを目標としていた。

財を成し豪華客船をまるごと買った

⑦ 藤井彦四郎 [1876-1956] [五個荘]

フランスで人工絹糸(レーヨン)が発明されたことを知り、すぐに見本品を輸入し「人造絹糸」と名づけ宣伝。その後、「スキー毛糸」のブランド名で知られる毛糸販売で莫大な財を成した。イ

ギリスで気に入った豪華客船を、船内の備品まで含めてまるまる買った豪傑。



「幻の百貨店王」四兄弟

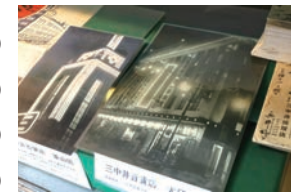
⑧ 中江勝治郎 [1872-1944] (五個荘)

⑨ 西村久次郎 [1876-1945] (五個荘)

⑩ 中江富十郎 [1878-1938] (五個荘)

⑪ 中江準五郎 [1886-1937] (五個荘)

昭和初期、朝鮮半島や中国大陸で「三中井(みなかい)百貨店」を築いた四兄弟(久次郎は西村家へ養子に入ったため苗字が異なる)。屋上でビアガーデンを開くなどのアイデアも大当たりし、一時期は約20店舗にもなり中江四兄弟は「百貨店王」と称されるほどに。地元の人々を従業員として採用し、雇用機会を増やして地域にも貢献していた。



しかし、日本の敗戦とともに店も財産もすべて中国で没収されてしまい、百貨店は消滅したまま復活することはなかった。

現在は、勝治郎の養子筋の子孫が経営する、「三中井」という名の洋菓子店が彦根市に1店舗だけ残っている。また、出身地である五個荘では、末っ子である準五郎の本宅が一般公開されている。

掘り出しモノを探しに行こう

商家のお宝拝見します

名家の旧宅や神社、資料館、時にはまちかどにも——。いたるところに、近江商人ゆかりの「お宝」が残っている。いずれ劣らぬ逸品揃い、とくにご覧あれ。

端切れも無駄にしない精神

① 布細工

(近江八幡／旧伴家住宅)

旧伴家住宅のとある一室、引き出しの中には数々の小物が隠れている。近江八幡の伝統工芸でもある着物。その端切れを使った小物で、箱などの実用的なものから、タコヤエビなど海産物の小袋(!)まで。近江商人の妻たちの暮らしが垣間見える。



徳川家と朝鮮政府の友好の証

② 朝鮮通信使瓦人形

(近江八幡／旧伴家住宅)

江戸時代、朝鮮から日本に送られていた外交使節団・朝鮮通信使。近江八幡はその中継地だった。その旗手がモデルで、地場産業の瓦製造の技術を駆使し、立体的で服のシワやふくらみまで精巧な造り。よく見ると赤と金で彩色されていた面影も。



海外からやって来た最新器具

③ ガルバニ電気治療器

(日野／旧山中兵右衛門邸)

江戸時代末期にオランダ人によってもたらされ、日野商人の本宅で保管されていた医療器具。イタリア人のガルバニが発明した電池を使っている。ほかの電気治療器よりもコンパクトで精巧なのが特徴。電圧は最大数百ボルト!



豪華客船の船内を再現!

④ ポーカーテーブル

(五個荘／藤井彦四郎邸)

一目惚れしたヨーロッパの客船を、なんと一隻丸ごと買い取ってしまったというからビックリ。藤井彦四郎邸の一角に立つ迎賓用の洋館には、船内にあった調度品がズラリ。ポーカーテーブルは、貝殻をモチーフにした装飾の灰皿つき。



豪華絢爛な装飾が町の自慢

⑤ 日野祭曳山 (日野／本町曳山)

日野の町を歩いていると目につく背の高い蔵。日野祭で馬見岡綿向神社まで巡行する曳山(山車)が収納されている。写真の本町曳山は、1806(文化3)年の修復当時の姿を今に伝えている。金箔がふんだんに用いられ、凝りに凝った彫刻も素晴らしい。



食べられるけど食べないでね

⑥ 左義長

(近江八幡／旧伴家住宅)

織田信長が自らも参加したと伝わる左義長祭は、例年3月に開催。実際に左義長が見られるのはお祭りの2日間だけだが、展示用の原寸大のものが旧伴家住宅にある。干支の動物をメインにした飾り部分は、マメヤスルメ、昆布など、食材でできているから驚きだ。



ガラガラくじの祖先がここに!

⑦ 富くじ箱 (五個荘／藤井彦四郎邸)

お祭りなどで景品を抽選する時に使うガラガラくじの明治バージョン。上に置いてある四角い小さなコマを入れて、くじにしていた。現在だと残念賞でたわしなどが当たるが、当時はどんなものが景品になっていたのだろう。



ダイヤルはイロハニホヘト

⑧ 金庫 (日野／旧山中正吉邸)

旧山中正吉邸、江戸時代末期に建てられた主屋。その一角にある事務を行う机場(ちょうば)には、大正時代の金庫が備え付けられている。ダイヤルが数字ではなく「イロハニホヘト」になっているところが、なんともレトロ可愛い。



番頭さんと丁稚くん
日本最古のワイン発見!



旧山中兵右衛門邸(近江日野商人館)で、蔵の床下から発見された最古の国産ワイン。1905(明治38)年〜1913(大正2)年頃、茨城県牛久産。静岡県の山中家の店舗で販売していたものようだ。

旦那さん気分でご覧してみる?

商人屋敷の名建築&名庭園

財を成せば、お宅も立派になるもの。そして、そのたずまいはそれぞれに個性的。なかには数百年を超す建物もあり、文化財としても貴重なものばかり。こだわりぬいた珠玉の職人芸が随所に。これも近江商人が育んだ文化のひとつだ。

SPOT 1 和室も洋間も絢爛豪華 西川甚五郎邸 (近江八幡)

「寝具の西川」で知られる西川家の本宅。約700坪の敷地に江戸・明治・大正各時代の建物が遺る。外観は横に長い和風建築で内部も和室が中心だが、二階にはモダンな洋間がある。面白いのは、屋根裏のからくりで可動式の電灯。コードを引っ張ると下に降りてきて、ちょうどよい高さに調節できる。蔵の入口にある電話ボックスに似た出っ張りには、十二代目の趣味だった写真の現像室。●近江八幡市大杉町17 / JR 近江八幡駅から徒歩で7分、下車すぐ / 邸内見学はイベント時のみ(要予約)※史料館は10～17時 / 火曜休 / 無料



江戸時代築で現存の三階蔵は全国で19棟だけだ



SPOT 2 重要文化財指定の三階蔵は必見 旧西川利右衛門宅 (近江八幡)

【旧西川利右衛門宅】

一棟の建物内が店部分と居宅部分に分かれた典型的な近江商家の造り。特徴的なのは、大きな座敷玄関。この引き戸を開けて、大荷物の人たちを迎え入れていた。三階建ての蔵は、江戸時代初期の1681～1684年(天和年間)に建てられたもの。後に、幕府により2階以上の建物は贅沢との理由で禁止されたため貴重(外観のみ見学可)。●近江八幡市新町2 / JR 近江八幡駅から徒歩で6分、下車すぐ / 9時～16時30分 / 月曜休(祝日の場合は翌日) / 有料



SPOT 3 銘木の良さを活かした熟練技 旧山中兵右衛門邸 (日野)

【近江日野商人館】

1936(昭和11)年、不景気の時に「お助け普請」の精神で、地元の職人たちに発注し建造。自然の紋様を活かした床の間脇の書院、節のない一木にシンプルな細工を施した柱など、センスの良さがうかがえる。窓の外には、瓦屋根を借景にした枯山水庭園。老松がひときわ映える。●日野町大窪1101 / 近江鉄道日野駅から徒歩で7分、徒歩3分 / 9～16時 / 月・火曜休(祝日の場合は水曜) / 有料



SPOT 4 江戸から昭和までをぐるり 旧山中正吉邸 (日野)

【近江日野商人ふるさと館】

江戸末期に建てられて以来、増築に増築を重ねた広大な邸内は15部屋。ぐるり一周すると、江戸、明治、大正、昭和と、各時代の部屋を見学可能。いずれも大正末期から昭和初期に建築された、モダンな洋間とステンドグラスが美しい浴室が特に目を引く。和室の釘隠もお見逃しなく。コウモリの形で、ひとつひとつ手作りのため表情や形が異なっている。●日野町西大路1264 / 近江鉄道日野駅から徒歩で10分、徒歩2分 / 9～16時 / 月・火曜休(祝日の場合は翌日) / 有料



SPOT 5 生活水の使い方に工夫あり 外村繁邸 (五個荘)

築120年超の商人屋敷は、作家としても名を成した外村繁の生家。門をくぐると「川戸」があり、ここで野菜などを洗っていた生活が想像できる。土間の奥には自家水道。井戸の横に設置した箱に水を汲み上げる

と、配管を伝って五右衛門風呂に水が貯まる仕組み。庭園も見事で、特に二階の座敷からは全景が見渡せて絶景。●東近江市五個荘金堂町631 / JR 能登川駅から徒歩で10分、徒歩5分 / 10～16時30分 / 月曜(祝日の場合は翌日)・祝翌日休 / 有料



SPOT 6 商人屋敷で随一のスケール! 藤井彦四郎邸 (五個荘)

スキー毛糸で財を成した豪商の邸宅は、なんと2470坪。庭園だけで800坪もあるというからビックリ。琵琶湖の形になっている池の周りぐるり一周できる地泉回遊式庭園になっている。歴代総理や渋沢栄一の

書、皇族用の部屋にある蒔絵の火鉢など、邸内にはお宝もそこかしこに。●東近江市五個荘宮荘町681 / JR 能登川駅から徒歩で6分、徒歩15分 / 10時～16時30分 / 月曜(祝日の場合は翌日)・祝翌日休 / 有料

庭師さんのお手入れもスゴイ!



城下町に並ぶ名建築の数々

近江八幡さんぽ

八幡山のふもとの城下町に本宅を構え、全国へ高いに練り出した八幡商人。彼らが活躍を始めた頃の風景が、今でも保護され残っている。「青い目の近江商人」ヴォーリスの手掛けた洋風建築も見逃せない。



左義長祭当日の日牟禮八幡宮前

TWO RABBITS BEER HOUSEのコースター



サステナブルな ナッツ屋さん

SPOT 1 Going Nuts!

元酒蔵の建物内に構える店内には、カリフォルニアを中心に世界各地から仕入れた数十種類のナッツがズラリ。量り売りだと割引される販売方法は環境にもやさしく、まさに「三方よし」。●近江八幡市仲屋町中21 / JR 近江八幡駅からバスで8分、徒歩3分 / 11~18時(日曜は12~17時) / 水曜休



一期一会のビールに会える

SPOT 2 TWO RABBITS BEER HOUSE

日本蔵を改装した広々とした店内で、クラフトビールが楽しめる醸造所直営店。8つのタップは常に種類が入れ替わり、いつ訪れても飽きない。誰もが好みの一杯に出会えるよう、季節限定や樽熟成など多種多様なビールを醸造。一期一会の一杯を楽しんで。●近江八幡市大杉町 27-2F / JR 近江八幡駅からバスで7分、徒歩2分 / 12~18時(金・土曜は~21時) / 火・水曜休(祝日の場合は営業)



近江八幡駅 ↓

★ 旧伴家住宅 (P6・7)
★ 小幡町資料館前

★ 旧西川家住宅 (P8)

西川甚五郎邸 (P4・8)
新町

白雲館

八幡堀 (大杉町)
八幡山ロープウェー口

鍛冶屋町

ひむれ 日牟禮 八幡宮

SPOT 3 八幡堀を眺めながら一息

あまな

「でっち羊羹」で有名な老舗和菓子店「和た与」の系列店。近江牛や湖魚、うなぎなど地元食材の料理が味わえる。●近江八幡市大杉町 32 / JR 近江八幡駅からバスで7分、徒歩2分 / 10時~17時30分 / 火曜休(他不定休あり)



SPOT 4 ヴォーリス建築の傑作

旧八幡郵便局

築100年を超えるヴォーリス建築。アーチ型の窓など、独特の洋風建築の装飾が美しい。当時の私書箱が壁面に残っていたり、屋根瓦に郵便マークが隠れていたり(写真右上)、細かな点も見逃さない。内部は土・日曜、祝日を中心に一般公開されていて、喫茶もオープンする。●近江八幡市仲屋町中 8 / JR 近江八幡駅からバスで8分、徒歩3分 / 見学自由



水上散策も水辺のそぞろ歩きも

SPOT 5 八幡堀

1585(天正13)年に豊臣秀次が八幡山に城を築いた際に開削。琵琶湖とつなぎ、船を城下に寄港させることで、人や物を集め町を活気づけた。船に乗っての観光も可能。まるで時代劇の世界。夜はライトアップも。



SPOT 6 郷土資料館

建物は旧・八幡警察署でヴォーリス建築。江戸末期の民家を再利用した歴史民俗資料館も併設。かつては、20歳でベトナムに渡った西村太郎右衛門の邸宅があった場所でもある。



SPOT 7 近江八幡教会

1907(明治40)年にヴォーリスによって建てられた教会。十字架を頂く塔が青空に映える。現在の建物は1983(昭和58)年に再建。日曜には礼拝も行われている。



SPOT 8 八幡山

ロープウェイでわずか4分で山頂へ。近江八幡市街ほか、周囲を一望できる絶景が広がる。ハイキングも可能。近江八幡の町を造った豊臣秀次の八幡山城の石垣も残る。



水路が巡るもの静かな古き町

五個荘さんぽ

五個荘商人の発祥は農業の閑散期に行商を始めたのがきっかけ。水路が縦横に走るのんびりした風景の中に、名を挙げ財を成した豪商たちの屋敷が点在する。



弘誓寺前の水路には錦鯉が泳ぐ



なんでもこだわりの genzai。コーヒーはサイフォン式

重厚な本堂は国の重要文化財

SPOT 3 弘誓寺

五個荘町の古い町並みが続く金堂地区に、ひととき高くそびえ立っている真宗大谷派の古刹。現在の本堂は1755(宝暦5)年に建てられたもので、国の重要文化財。●東近江市五個荘金堂町 615 / JR 能登川駅からバスで9分、徒歩3分 / 参拝自由



独特の模様理由は……

舟板塀

五個荘の商人屋敷ならではの意匠として知られるのが、町のあちこちで目に入る舟板塀。かつて舟に使用していた材木を、屋敷や土蔵の壁や塀に再利用したものだ。ほぼ等間隔に並ぶ釘跡が独特の景観を生んでいる。



SPOT 路地裏のギャラリーカフェ

1 genzai

築200年の元商家を改装したギャラリーカフェ。入口から正面の土間と左手の部屋がギャラリー兼ショップで、こだわり抜いた商品を展示・提供している。奥には喫茶スペース。モダンな店内は、時間を忘れて一息つくのにぴったり。●東近江市五個荘川並町 732-1 / JR 能登川駅からバスで11分、徒歩4分 / 11~18時 / 水・木曜休



SPOT 鳥居や灯籠を商人が寄進

2 大城神社

ひととき目を引く大きな鳥居は、昭和10年代、近江商人からの寄進。境内にさまざまな形の灯籠が立っているのも見どころ。●東近江市五個荘金堂町 66 / JR 能登川駅からバスで9分、徒歩7分 / 参拝自由



SPOT 4 観峰館

書の文化にふれる博物館として、公益財団法人日本習字教育財団が、書道文化の普及を目的に運営する博物館。●東近江市五個荘竜田町 136 / 近江鉄道五箇荘駅から徒歩12分 / 9時30分~17時 / 月曜休(祝日の場合は翌日) / 有料



SPOT 6 近江商人博物館・中路融人記念館

近江商人の歴史や暮らしぶりを映像やジオラマで紹介。湖国・近江の風景を描き続けた日本画家・中路融人の作品も見られる。●東近江市五個荘竜田町 583 / JR 能登川駅からバスで9分、徒歩8分 / 9時30分~17時 / 月曜休(祝日の場合は翌日) / 有料

SPOT 5 大和郡山藩陣屋跡

1685(貞享2)年から明治維新まで、大和郡山藩領だった五個荘。かつては金堂村と呼ばれていたため、金堂陣屋と呼ばれていた。代官所が置かれていた場所には、当時の稲荷社が残っており、赤い鳥居が立つ。



SPOT 7 川中地蔵

勝徳寺前の水路を覗くと、石積の脇に丸みを帯びた立石がある。時間とともに削られて楕円形になっているが、よくよく見るとお地蔵様。花が供えられて大切にされている。



古民家を改装した店や宿も 日野さんぽ

日野の商人屋敷の象徴といえるのが、板塀の「棧敷窓」。
これは、年に一度の「日野祭」の行列を、座敷から見学するためのもの。
なかには、部分的にベンガラ色で装飾されたものもある。



日野祭の際は、棧敷窓が開けられ
緋毛氈で華やかに



猪がキャラクターの
HINO BREWING
の地ビール

日野商人の信仰篤き古社

SPOT ① 馬見岡綿向神社

春には日野祭で賑わう神社。神様の使
いとして猪が祀られている。千両松は、
江戸時代に遠方で働けた日野商人が、売
上を松の木の植木鉢に隠して無事に帰っ
て来られたことから奉納したとか。●日
野町村井711 / 近江鉄道日野駅からバス
で10分、徒歩2分 / 参拝自由



古民家カフェ& ゲストハウス

SPOT ② 綿向山ビレッジ

音楽好きな夫妻が移住し、築120年の古民
家を自らリノベーションして完成させたゲスト
ハウス。カフェ営業もしている。好評なの
が、大きな信楽焼の湯船。「おじいちゃんが
孫ふたりと入れる」ゆっ
たりサイズ。大人二人
でものんびりだ。●日
野町村井1300 / 近江鉄
道日野駅からバスで8分、
徒歩3分 / 11~15時、18
~21時 / 火・水曜休 ※
ディナータイム、宿泊は
要予約



珈琲自慢の古民家カフェ

SPOT ③ らっこや

築150年以上の古民家を改装
したカフェ。世界各地のスペ
シャリティコーヒーや、日野町
産ディンケル小麦を使ったパ
ンケーキを。●日野町大窪674
/ 近江鉄道日野駅からバスで7
分、下車すぐ / 11~18時 / 火
~木曜休 (他不定休あり)



近江商人屋敷でお蕎麦を

SPOT ④ 石挽そば 守貞

明治時代の近江商人屋敷をリノ
ベーションした石挽そばの店。赤い
緋毛氈がかけられた棧敷窓が目印。
●日野町村井1365 / 近江鉄道日野
駅からバスで9分、下車すぐ / 11
時~14時30分、17~21時 / 第3月
曜休



一度は見ておきたい天井画

SPOT ⑤ 信楽焼

戦国武将として著名な蒲生家
の菩提寺。本堂にある十八畳も
の天井画は必見。元は日野商人
だった画家・高田敏輔が描いた、
荒れ狂う龍の水墨画だ。どこか

ら見上げても、迫力満点の龍と
目が合う。●日野町村井1500
/ 近江鉄道日野駅からバスで9
分、下車すぐ / 参拝自由



SPOT ⑥ かぎや菓子舗

1848 (嘉永元) 年創業の和菓子屋。近江米
のもち米をまぶして蒸し上げた、いがまん
じゅうが名物。ひとくちサイズの羊羹「よう
こ」は、黒糖やブルーベリー (季節限定) など
味が12種類もある。●日野町村井1336 /
近江鉄道日野
駅からバスで
10分、下車す
ぐ / 8~18時
/ 火曜休 (他
不定休あり)



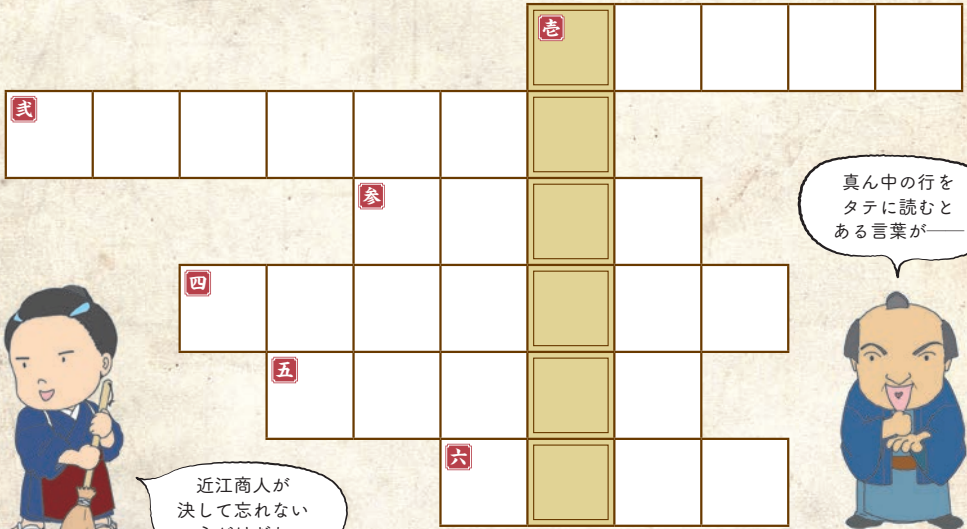
SPOT ⑧ 住井歯科醫院

街角にたたずむ、玄関のアーチが特徴
的なヴォーリズ建築。わずかにカーブ
を描き伸びる松とのコントラストが見
事。門柱に表札
が残っているが、
現在は住宅とし
てのみ使われて
いる。
※個人宅のため、
敷地内への立ち入
りはご遠慮下さい



答えはすべてこの冊子の中にあり☑

近江商人クロスワード



近江商人が決して忘れない心がけだね

真ん中の行をタテに読むとある言葉が――



ヨコのカギ

問 壹 日野祭の行列はお座敷から「〇〇まど」越しに鑑賞

問 貳 不景気を乗り切るためには「お〇〇けぶしん」で相互扶助

問 参 山形で見つかったB級グルメ 近江ルーツの麺類「〇〇ぼこ」

問 四 商人を目指すなら まずは「〇〇ほうこう」から

問 五 水路が巡る近江商人ゆかりの町 女性教育の先進地「ごか〇〇」

問 六 創業400年！ 近江八幡ルーツの老舗の寝具メーカー「に〇〇わ」

お問い合わせ先

- 近江八幡駅北口観光案内所 ●
0748-33-6061
- 東近江市観光協会 ●
0748-29-3920
- 日野観光協会 ●
0748-52-6577

発行：近江商人ゆかりの町連絡会 <https://omi-syonin.com/>

発行日：2023(令和5)年5月

原稿執筆：姫乃たま

編集制作：風来堂(村上詩織/今田 洋/今田 壮)

デザイン：cycledesign

イラスト：プタネコ本舗